

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100332		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 常葉の家		
所在地	静岡県掛川市大坂 398-1		
自己評価作成日	平成22年 2月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○ 利用者の状況、要望に個別に応えられるよう、心がけています。</p> <p>○ 目の前の公園があり、川にはカモがいたり、恵まれた自然環境にある。又、買い物も歩いていける近さなので 生活環境として、快適です。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>掛川市郊外の大型施設が建設されつつある地域に6年前開所された医療法人グループが運営する3階建て3ユニットのグループホームです。現館長(管理者)は5年の勤務歴があるものの昨秋に急遽就任となり、戸惑いながらも受審に前向きに取り組んでいられました。管理者・ユニット長・職員が一体となって、認知症高齢者一人一人を支え、良質なサービス提供を目指す思いのこもったホーム作りが感じられました。職員の離職率が低いことで利用者との信頼関係も厚くあり、チームワークが確立されています。入居者は、自然に囲まれた安心な生活環境の下、のびやかに役割を楽しみながら普通の毎日を送られています。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にもとづいた支援ができる様、心掛けている。	開所時掲げた「家庭的な環境の中でゆったりとした生活をおくり、何らかの役割を持ちながら楽しく暮らす」という理念を 月曜日の朝礼時等で意識付けをはかり「一緒に暮らす」支援につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	屋台引き回しの祭り、施設の中に入ってもらったり、ボランティアの方の踊り・劇を披露してもらっている。	自治会に加入しているものの近隣に住宅がなく、隣組の交流はなされていません。しかし日常的に公園散歩や買い物時の機会をとらえ、職員と共に近隣の方々とふれあいの交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職業訓練、教師の見学、ホームヘルパーの実習等で地域の方に理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行なっている。	家族、地区住民、市担当者、グループ地域責任者の参加で報告・様々な課題で話し合いが行われ活動に活かしています。自治会代表の参加に向けて理解を得るよう働きかけも続けています。	一定の家族の参加が続いています。運営推進会議の理解をはかり、内容を工夫し より多くの家族への呼びかけが望まれます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	H21年8月に地震があり、市の担当者より、連絡をいただきました。1月27日実地指導があり、ケアサービスの取り組みを伝えたり、協力関係を築いています。	地域とのかかわり等では、頻繁に相談しアドバイスを頂いています。市より研修会案内もいただき、役立てています。	現在、自治会からの広報誌の配布がないので、市と連絡をとり「市の広報誌」を入居者が見たり回覧できるように取り組んで頂きたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、いつでも出られるように見守りをしている。	「身体拘束ゼロ」を実践しています。各ユニット共にドアを開けると鈴がチリンと鳴り、すぐにスタッフが寄り添う配慮ある実践が行われていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	情報の共有、介護についての共有化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講習など、個人的な学ぶことはしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行ない、理解 納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見、要望等、意見箱を設置し取り組んでいる。	管理者・ユニットリーダーは頻繁に電話を使って、家族に利用者の様子を伝える連絡を取り、協力関係が築かれています。意見箱には本人からの要望も時々投函されサービスに活かされています。	家族向け『ホーム便り』等の手段でユニット職員の異動や行事のお知らせの周知を図ることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	機会を設け 反映させている。	管理者は職員と各会議は勿論のこと、日常的に意見や提案を話す良い関係にあり運営に反映されています。また、法人のグループ会議には地域責任者と共に出席し、現場の運営等に関する意見・要望も伝えるようにしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修があり、職員の研修レポートの提出や、市立病院の医師の講習を 常業の家で開きました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	系列のグループホームの管理者同志は、交流する機会はあるが、職員が交流する機会が無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に耳を傾けながら、安心して過ごされる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会に来られた時、電話での報告等で話す場を持ち、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	定期的な通院や外出支援等本人家族と話し合い、その人らしい生活の継続が図れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりのペースを大切に、家族のように共存し、庭に畑があり、野菜の育て方など利用者から学び お互い支え合う雰囲気大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、築いていける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と会っていただいたり、本人が行きたい馴染みの場所にドライブに行っています。	家族以外の馴染みの方の訪問が少ない現状はありますが、外出の機会を作り、住み慣れた地域へのドライブや、馴染みの商店での買い物、自分の畑を見に行く等 一人ひとりに目を向けた支援がなされていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	余り行なえていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	努めています。	職員は一人一人に目を向け、共に暮らす中で信頼を得て会話も多く交わされ、思いや希望の把握に努めています。書道や絵を描く等の支援もなされ小作品が展示されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ゆったりした雰囲気、出来ることやしたいことを尊重した無理のないその人らしく過ごせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話し合い、介護計画を作成している。	利用者の日々の生活変化に対する気づきを大切に、家族からも意向や要望を細かく聞き、医療関係の情報も取り入れ、職員と話し合いを重ね作成しています。また、状況変化時には早めに見直しを行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫を新しくノートを作り、介護計画の見直しや、サービス担当者会議などで活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	系列の事業所と協力し、イチゴ狩りや、買い物への同行、利用者の状況に応じた要望に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の会館で季節によってですがお花畑ができ、お花を摘んだりして 外出しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医の受診に行き、心身の変化等気軽に相談できる医療を受けられるよう支援しています。	職員が車で協力医である医院に受診の支援をしています。本人のかかりつけ医への受診にも情報を共有する為の対応をしています。主治医にケアプラン作成に関わっていただくこともあり 連携の関係が築かれています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師、行きつけのあすか薬局の薬剤師から、いつでも相談でき適切。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院安心して治療できるようにご家族とも相談し、総合病院の連携室との関係も行っていきます。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体の状態を把握し、家族、医師と十分話し合いを行い、取り組んでいます。	入居時、入居後も本人・家族の意向に即した柔軟なケアを行うことを基本としていますが、医療ニーズの割合が大きくなった場合等は、対応できないことを説明しています。運営が医療法人であり、重度化時の病院との連携は可能です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を常業の家で開いたり、消防署の講習に行き、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練総合訓練を消防署の職員の方に常業の家にきていただき、指導を受けています。地域との協力体制は、地域のご家族とは築いていきます。	昨年夏の地震を体験したことで意識を高めた訓練を実施しました。地域との協力体制が取りにくい立地であるため協力体制作りは課題となっています。貯水槽と本部より支給のアルファ米の備蓄品を確認しました。	地域防災訓練等の情報を収集し、積極的に職員・利用者が共に参加する試みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり思いやりを持ち言葉をかけ対応に気をつけています。	プライバシー確保や利用者を尊重した対応については、会議や朝礼等で繰り返し検討し、意識して取り組んでいます。特に管理者・ユニット長は現場での「気づき」はその場で対応し注意をはかっています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本意で言葉に気をつけて、働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、身体の状態に気をつけ楽しむことができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者で口紅や眉毛をひいたり、お化粧をされる方がおられるので大切にしていきたいです。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理を作り、会話を楽しみながら片付けをしている。	週3日はユニットごとで自由な献立と食材の買い物、4日は食材・献立を業者に委託しています。それぞれの「役割り」も十分発揮され、会話のある明るい昼食の風景が見られました。寿司店等への外食も楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表で 水分量が確保できるよう努めています。メニューを決める時もバランスを考えて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼中は綿パンツ、夜間は紙パンツ。習慣を活かして、自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の意思を尊重しながら個々にあわせて、トイレ誘導を行っています。失敗してしまった利用者にも上手な言葉掛けで支えていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけの医師に相談したり、個々に応じた散歩や体操、便秘予防の飲食物等考えて取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ユニットごとでお風呂の曜日が違うので、入れなかった利用者は、他のユニットで入浴できている。	2,3名入浴可能な大型のお風呂が各階にあります。支援の必要に応じて1~2名でゆっくりと入浴を楽しんでいます。基本的には週3回の午後と決めています。シャワー浴は随時可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を常に出して理解し症状の変化の確認に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯干し、洗濯物取り込み、たたみ、買い物。菜園作り、水やり、張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	公園や買い物に出かけたり、気分転換にドライブに行きます。季節によっては、花見やおやつを持参し、外出します。	目の前の公園に個々の利用者ごと、日常的にプチ散歩し体力保持の支援にもなっています。敷地内には大根や葱が植えられた畑があり、畑作りのプロの利用者の指導の下作られ、食材として提供され喜びにもなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持し使っている方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の承諾を得、電話をしたりしています。手紙はいただいております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花を飾ったり、掲示板で四季折々の工夫をしている。	全てのユニットに太陽が降り注ぎ、清潔で気持ちの良い空間です。職員持参の季節の花が飾られ有り難く感じているという家族の声もありました。大型テレビの前にはゆったりしたソファが置かれ寛いでいられました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファで過ごされたりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は朝日が入り、気持ちが良いです。使い慣れたものや、好みのものが置かれ、居心地よく過ごされています。	居室には洗面台とカーテン使用のクローゼットが設置され、使い慣れた家具、家族の写真が飾られ、その人らしさの居住環境が整っていました。遮る物のない窓からの風景もそれぞれの方の楽しみとなっているようです。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。		